

税金と未来

横手市立横手南中学校 藤井 文音

―私には心配な事がある。それは、自分が納税者になる頃には社会はどうなっているのだろうか、ということである。

秋田県を筆頭に、日本は少子高齢化が急速に進んでいる。これまで一人の高齢者を複数人の税収で支えてきていたが、このままだと一人をほぼ一人で支えなければならぬ時代がやってきてしまう。互いを支え合って国民が人間らしく豊かに生活できるとても大切なしくみが納税であるとなると、負担する側も支えられる人々も両方が幸せでないと、国中が不安になったり将来を悲観したりしてしまうかもしれない。私が大人になって責任ある納税者の一人となったときに自分たちも含め全ての国民がこれまで以上に安心して暮らせる世の中になっ

ていてほしいと願う。

負担する側が苦しくなったり、支えられるべき人々への恩恵を十分に受けられなくなった

りしたら：と考えるとやはり不安になってしまう。

でも、心配ばかりしていても何も変わらない。まだ中学生の自分に、今からでもできることは何だろうと考えてみることにした。

正直なところ、『税』についてこれまであまり関心がなかった。なぜなら直接自分たちが何かしているわけでもないし、しくみや制度なども難しそうで、自分事として考えるきっかけがなかったからである。それに、『税金』は目に見えないし、どんなかたちになって国民に還元されているのか気付いていないこともある。

私が通院したとき、診察やお薬を処方してもらっても自分の分はお金を払ったことはない。母が毎回「マル福」というカードを提示し、父のところには定期的に更新されたカードが届く。家族はいつも「大事なカードだ。ありがたい。将来を担う子どもたちはみんなの税金で守られているんだよ。」とよく口にする。

―そうか。私たちはまさに税によって守られ助けられ、未来の日本をつくる責任ある大人になれるように育て支えられているのだ。

だとしたら、今の自分にできることは三つ。まず自分たちが多くの人たちから税によって支えられていることを知ること。もう一つは税のしくみや現在の課題について学び、正しく理解すること。そして、無関心を捨て日本や世界でおきている事象について注意深く見つめ、考えたことや自分にできることを発信したり議論したりする場と機会を積極的に捉えていくことだと考えた。

今後は折に触れて家族と話し合ったり、新聞やニュースから学んだりして、税についてより深く考えていきたいと思った。